



# リサナメント \* TAKARAZUKA 通信

NO.7 2004/07/10

前回の6号発行から半年、久しぶりの通信です。梅雨明けはまだのようですが、暑さ厳しい日がつづき、アスファルトを敷き詰めた街なかでさえ、緑の匂いの濃さにつつまれています。おすこやかに過ごしてでしょうか。



リサナメントのささやかな集まりも、3年が過ぎました。場所をご提供のいまい内科クリニックの今井先生ご夫妻をはじめ、ご参加のみなさまのあたたかいお力添えに感謝しています。縛り合わないゆるやかな連帯をモットーに、小さな芽が根づき、細い幹が育ち、若木となりました。今後、リサナメントをどう継続し、枝や葉をどう茂らせていくのか、あるいは、その木陰に人びとが憩えるような存在になれるか。。。それが、私たち世話人の考え続けた課題でした。充電期間ともいえる半年間を経て、いま、新しい「かたち」と「思い」をお知らせしたいと思います。



## リサナメント世話人代表を上阪法山師にお願いしました。

「それぞれの人がそれぞれできることをする集まり」、「心の納めどころをもちましよう」と提唱していただき、当初からリサナメントの精神的なバックボーンであられた上阪和尚様に無理をお願いして、世話人の代表を引き受けていただきました。僧侶としての上阪師という以上に、人間としての氏に、私たちは学ぶことが多く、氏から受ける心の栄養によって、リサナメントの会も、そして集う人びとも成長してゆけるような気がします。



## リサナメントの進むべき道 .... 自らが種火になって ....

今回、新しい気持ちで、リサナメントのこれからを再考してみました。その過程で、上阪師のお話が大変参考になりました。以下に紹介します。

「人は便利な生活になっていくと、ゆとりができますが、つながるといことから少しずつ距離をおいてしまうものです。ところが、つながりたくないと思う一方で、さびしさ、不安、恐れをもつ。逆にいえば、このような不安やさびしさがあるからこそ、人とつながりたいという思いが生まれてくるのです。自分の足りなさを補ってくれるものは人とのつながりであり、人に見守られている自分があると意識しながら生きていくことが大事です。さらに、自分の好きなこと、ウキウキするようなことを自身の中に閉じこめておかないで、「さそう人」になりましょう。自らが種火になって、あたたかいものをリサナメントの一人一人の中に育てながら、多くの人にさそいかけながら、ともに行動できる喜びを見つけましょう。

まさに、リサナメントの進むべき道を言い当ててくださった思いです。

『盛り上がり協力隊』という言葉聞いたことがあります。(多くの場合は地域の)人びとが何かをしようと計画するうちに、あれも楽しそう、これもどうかと、自分たちが楽しく盛り上がっていく事例をさします。私たちリサナメント世話人会の望みもそんな積極的な関わりの輪が広がっていくこと。。。一人一人の暮らしのセンスを結びあってつながる、その輪のなかに、あなたもどうぞご参加ください！！

リサナメント世話人会

